専門基礎分野

大項目	中項目	小項目
1 解剖学	A 総論	a 正義、分類 b 発生等
	B 骨格系	a 骨の構造と分類 b 骨吸収と骨形成
		c 関節の構造と分類 d 各部の骨・関節
	 C 筋系	a筋の構造と形態
		b 各部の筋・腱・靱帯
	D 神経系	a 中枢神経系 b 末梢神経系
	E 脈管系	a 心臓
		b 動脈系 c 静脈系
		d リンパ系 a 消化器
		b 呼吸器
		c 泌尿器、生殖器 d 内分泌腺
	 G 感覚器	a 視覚器、平衡聴覚器、皮膚受容器等
	H 体表解剖	a 動脈 b 神経
		d 骨 e 関節
	 I 断層解剖	a 中枢神経系
		b 筋、骨格、末梢神経系 c 内臓諸器官
	〕 組織	a 細胞の構造と機能 b 細胞の分化(遺伝子、DNA等)
2 生理学	A 総論	a 細胞生理
		b 再生医学の基礎
	B 筋	a 筋線維の構造と機能 b 筋収縮
	C 神経	a 神経線維の構造 b 興奮と伝導
		c シナプス伝達 d 反射
		e 受容器-感覚神経伝達 f 神経-筋接合部の伝達
		i 可塑性

I 人体の構造と機能及び心身の発達

大項目	中項目	小項目
2 生理学	D 感覚	a 体性感覚(表在感覚、深部感覚)
		b 内臓感覚
		c 視覚
		d 聴覚、平衡覚
		e 嗅覚、味覚
	E 発声、構音、言語	a 発声器官
		b 言語中枢
	F 運動	a 運動単位
		b 随意運動
		c 筋緊張
		d 運動における生体の生理的変化
	G 自律神経	a 交感神経系
		b 副交感神経系
	H 呼吸	a 呼吸運動(気道内圧、肺の容積変化を含む)
		b ガス交換とガスの運搬
		c 酸塩基平衡
		d 呼吸中枢
		a 循環の調節(血液とリンパの循環)
	合む)	
		c 心臓拍動の自動性と心拍出量
		d 心臓の刺激伝導系
	J 血液、免疫	
		b 血液の細胞成分の生成と分化
		c 血液凝固と線溶現象
		d 免疫機能
		a 唾液分泌の機序
	吸収	b 嚥下運動と嚥下反射中枢
		c 胃内消化(胃液分泌、蠕動運動を含む)
		d 腸内消化吸収
		e 肝臓・胆嚢・膵臓の機能
		f 消化酵素
		g 栄養素と吸収部位
	L 排尿	a 尿の性状
		b 糸球体・尿細管の機能
		c 排尿機構(排尿中枢を含む)
	M 排便	a 胃大腸反射等
		a ホルモンとビタミン
		c 代謝率(基礎・エネルギー代謝率を含む)
	O 体温調節	a 体温調節中枢
		b 熱の産生と放出の機序

I 人体の構造と機能及び心身の発達

上西口		
大項目	中項目	小項目
2 生理学		a 勃起、射精
		b 排卵、月経、妊娠、出産
	Q 老化	
3 運動学	A 総論	a 定義、目的
		b 力学の基礎
		c 運動器の構造と機能(機能解剖を含む)
		d 運動の中枢神経機構
		・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
		f 運動と呼吸・循環
		a 顔面・頭部の運動
		b 上肢帯と上肢の運動
		c 下肢帯と下肢の運動
		は 体幹の運動
		·
		e 呼吸運動
	C 動作解析	
	D 姿勢	
	E 歩行	
	F 運動制御と運動学習	
4 人間発達学	A 総論	a 定義、目的
		b 発達理論
		c 発達段階と発達課題
		d 発達評価(改訂日本版デンバー式発達スクリーニング検
		査〈JDDST-R〉、遠城寺式乳幼児分析的発達検査、子ど
		もの能力低下評価法〈PEDI〉等)
		e 運動発達(原始姿勢反射を含む)
		L f 精神発達
		g 心理・社会的発達
	 B 各期における発達	a 小児期
		b 青年期
		c 成人期
		d 老年期

I 人体の構造と機能及び心身の発達

Ⅱ 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進

大項目	中項目	小項目
1 医学概論	A 医学の基本	a 医学の歴史
		b 生命倫理
		c 医の倫理(患者の権利、医療者の義務)
	B 健康と疾病の概念	a 健康の定義
		b 疾病の定義と分類
2 臨床医学総論	A 病理学概論	a 病因論(内因・外因を含む)
		b 病理学的変化(血行障害、進行性・退行性病変、炎症・
		感染・免疫・アレルギー、腫瘍・新生物、奇形・遺伝を
		含む)
		c 生体反応(ホメオスターシス、ストレス)
	B 疾病の診断と治療	a 問診、身体所見、記録
		b 生化学検査
		c 生理検査
		d 画像検査
		e 薬物療法
		f 外科的治療
3 リハビリテーション	A 総論	a リハビリテーション医学の定義と歴史
医学		b リハビリテーション医学の特徴
		a 医学的情報(病理・生理・画像診断を含む)の評価
	価	b 心身機能・身体構造の評価
		c 活動の評価
		d 参加の評価
		e 背景因子(環境因子および個人因子)の評価
		a 運動障害(運動麻痺、筋力低下、持久力低下、筋萎縮、
	ハビリテーション	関節拘縮、運動失調、痙縮、固縮を含む)
		b 動作の障害
		c 呼吸障害
		d 循環障害
		e 代謝・内分泌障害
		f 発達障害
		g 構音障害
		h 視覚障害
		i 聴覚障害
		j 高次脳機能障害
		k 疼痛
		摂食・嚥下障害
		m 排尿障害
		n 排便障害
		ο 精神・心理障害

Ⅱ 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進

		リエク及び回復過往り促進
大項目	中項目	小項目
3 リハビリテーション	D 活動制限の評価とリ	a 日常生活活動〈ADL〉の制限
医学	ハビリテーション	b 生活関連活動〈IADL〉の制限
	E 参加制約の評価とり	
	ハビリテーション	
	F リハビリテーション	a リスク管理
	計画	b 機能的帰結の予測
		c リハビリテーションプログラムの立案
	G リハビリテーション	a 理学療法
	治療	
		 d 義肢・装具療法
		e 運動学習
		f 基本動作練習
		i 神経ブロック
		i 心理的アプローチ
		k リハビリテーション機器(杖、車椅子、座位保持装置、
		環境制御装置を含む)
		摂食機能療法
		a 疫学
		b 病理、病態、症候
		c 評価、検査(画像、生理検査を含む)
		は リハビリテーション
		a
		e その他の治療 a 歴史
4 臨床心理学	A 基礎理論	
		c 学習、記憶、行動
	B 発達心理および臨床	
	心理	b 成人・高齢者心理
		c 患者・障害者心理
	C 臨床心理検査法	
	D 心理療法およびカウ	
	ンセリング	

Ⅱ 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進

大項目	中項目	小項目
5 精神障害と臨床医学	 A 疫学、予後 B 病因、症候 C 評価、検査(画像・ 生理検査を含む)、 診断 D リハビリテーション E その他の治療(精神 療法を含む) 	a 器質性精神障害(症状性を含む) b 精神作用物質使用による精神および行動の障害 c 統合失調症、統合失調症様障害および妄想性障害 d 気分障害 〈感情障害〉(躁うつ病、うつ病を含む) e 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 A f 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群(摂食障害、非器質性睡眠障害を含む) g 成人のパーソナリティ〈人格〉及び行動の障害 h 精神遅滞(知的障害) i 心理的発達の障害(広汎性発達障害、特異的発達障害を含む) j 小児期および青年期に通常発症する行動および情動の障害(注意欠如・多動性障害等) k てんかん
6 骨関節障害と臨床医 学	 A 疫学、予後 B 病理、症候 C 評価、検査(画像・ 生理検査を含む)、 診断 D リハビリテーション E その他の治療 	a 変形性関節症、人工関節置換術後 b 骨折、脱臼、靱帯損傷 c 関節リウマチとその近縁疾患 d スポーツ外傷 e 脊椎疾患(椎間板ヘルニア、脊椎症を含む) f 腰痛症 g 切断(先天奇形を含む) h 肩関節疾患(肩関節周囲炎、腱板損傷を含む) i 骨粗鬆症 j 骨壊死性疾患(大腿骨頭壊死を含む) k 先天異常、系統疾患(骨端症を含む) l 骨軟部腫瘍 m 熱傷
7 慢性疼痛と臨床医学	 A 疫学、予後 B 病理、症候 C 評価、検査(画像・ 生理検査を含む)、 診断 D リハビリテーション E その他の治療 	a 慢性腰痛 b CRPS 〈complex regional pain syndrome〉 c 肩手症候群 d 視床痛 に e 幻肢痛 共 f その他(帯状疱疹、三叉神経痛等)

Ⅱ 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進

大項目		
8 中枢神経の障害と臨 床医学	A 疫学、予後 B 病理、症候	a 血管障害(頭蓋内出血、脳梗塞を含む) b 感染・炎症性疾患(脳炎、髄膜炎、脊髄炎、ヒト免疫
		 A 不全ウイルス〈HIV〉による神経障害を含む〉 く c 変性ならびに脱髄疾患(Parkinson病とその関連疾
	診断	E 患、脊髄小脳変性症〈SCD〉、運動ニューロン疾
	D リハビリテーション	ー に 患、認知症、多発性硬化症〈MS〉)
		共 d 外傷(外傷性脳損傷〈TBI〉、脊髄損傷)
		¦通¦e 腫瘍
		f てんかん
		g 視覚・聴覚障害
9 末梢神経・筋の障害	A 疫学、予後	a 末梢神経・筋疾患(多発性ニューロパチー、筋ジス)
と臨床医学		A ロフィー等)
		〜 b 外傷 (絞扼性神経障害を含む)
	C 評価、検査(画像・	E c 腫瘍
	生理検査を含む)、	
	診断	
	D リハビリテーション	
	E その他の治療	
10 小児の障害と臨床医	A 保健、疫学	a 脳性麻痺 A
学	B 病理、症候	b 水頭症(Arnold-Chiari奇形等)
	C 評価、検査(画像・	´ c 二分脊椎 E
	生理検査を含む)、	□ d 悪性腫瘍 (C
	診断	e 遺伝子病、染色体異常、系統疾患(先天奇形、Dowr - 共
	E その他の治療	
11 内部障害と臨床医学	A 疫学、予後	a 呼吸器疾患(慢性閉塞性肺疾患(COPD)、間質性肺
	B 病理、症候	炎、誤嚥性肺炎等)
	C 評価、検査(画像・	b 循環器疾患(心臓疾患、末梢動脈疾患、静脈・リン/ A ケーマン
	診断	
	D リハビリテーション	■ d 腎・泌尿器疾患(慢性腎臓病等) → (C →
	E その他の治療	e 生殖器疾患 共
		↓ f 血液疾患、自己免疫疾患 ↓通 → 中小沙 小部店串(糖尿店、労养院店、サルコペース
		g 内分泌・代謝疾患(糖尿病、栄養障害、サルコペニス を含む)
		を含む)
		注:それぞれの疾患には感染症を含む

大項目	中項目	小項目
12 がん関連障害と臨床	A 疫学、予後	a 脳腫瘍
医学	B 病理、症候	b 脊髄腫瘍
	C 評価、検査(画像・	A·C 呼吸器・胸郭内腫瘍
	生理検査を含む)、	
	診断	E e 女性器の腫瘍
	D リハビリテーション	に f その他 (臓器移植後等)
	(リンパ浮腫治療を	共
	含む)	通
	E その他の治療(緩和	
	ケアを含む)	
13 老年期障害と臨床医	A 疫学、予後	a 老年症候群および虚弱
学	B 病理、症候	▲ b 認知症
	C 評価、検査(画像・	へ (c うつ状態
	生理検査を含む)、	F d 末梢循環障害
	診断	e 誤嚥性肺炎
	D リハビリテーション	「 f 骨粗鬆症、骨折 共一二 ユノニ
	E その他の治療	¹¹ g せん妄
		^他 h 摂食・嚥下障害
		i ターミナルケア

Ⅱ 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進

Ⅲ 保健医療福祉とリハビリテーションの理

大項目	中項目	小項目
1 保健医療福祉	A 医療	a インフォームドコンセント b 安全管理(インシデント、感染対策 等)
		c 個人情報保護
		d チーム医療、連携医療
		e 医療面接
		f EBM〈根拠に基づいた医療〉
		g 医療の供給体制(一次・二次・三次医療、救急・災害・
		へき地医療、地域医療)
	B 保健	a 保健予防概念(一次・二次・三次予防)
		b 健康管理、健康増進
		c 環境保健
		d 地域保健
		e 母子保健
		f 学校保健
		g 産業保健
		h 高齢者保健
		j 感染症対策(届出、予防を含む)
	C 医療・福祉制度	a 医療保険制度
		b 公的扶助制度
		c 介護保険制度
	D 関連法規	a 医事法規
		① 医療法
		② 理学療法士及び作業療法士法
		b 保健衛生法規
		① 地域保健法
		② 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律
		③ 高齢者の医療の確保に関する法律
		c 福祉関係法規
		① 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するた
		めの法律〈障害者総合支援法〉
		② 児童福祉法
		③ 身体障害者福祉法
		④ 知的障害者福祉法
		⑤ 老人福祉法
		⑥ 障害者の雇用の促進等に関する法律〈障害者雇用促進
		法〉
		⑦ 発達障害者支援法

Ш	保健医療福祉とリハビリテーションの理念

大項目	中項目	小項目
2 リハビリテーション 概論	A 理念	a リハビリテーションの定義・歴史 b ノーマライゼーション c 自立生活〈independent living、IL〉
		e 総合リハビリテーション
	B 疾病・生活機能の概 念と分類	a 国際疾病分類〈International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems、ICD〉 b 国際生活機能分類〈International Classification of
	 C 患者・障害者の心	Functioning, Disability and Health、ICF〉 a 患者・障害者心理
	し 思る・障害者の心 理・社会的側面	b 障害受容
		c 心理教育(患者教育、家族教室) d 社会参加を支える法制度(障害者の権利に関する条約
		〈Convention on the Rights of Persons with Disabilities、 障害者権利条約〉、障害者基本法、障害を
		理由とする差別の解消の推進に関する法律〈障害者差別 解消法〉)
		a リハビリテーション関連職種とその役割
	の進め方	b チームアプローチ c 評価会議とゴール設定 d リハビリテーションプログラム、クリニカルパス
		a 医学的リハビリテーション b 教育的リハビリテーション
		c 職業的リハビリテーション d 社会的リハビリテーション
		e 地域リハビリテーション

専 門 分 野 (理学療法)

1 埋字療法の基本 A 歴史、現秋 a 日本と世界の理学療法 B 生命・医療倫理 a プロフェッショナリズム b グーマライビーション C 法規、関連制度 a 理字療法力及び作業療法士法 b グーマライビーション C 法規、関連制度 a 理字療法力及び作業療法士法 b 医療保険制度 C 法規、関連制度 a 理字療法力及び作業療法士法 b 医療保険制度 C 法規、関連制度 a 理字療法力及び作業療法士法 b 医療保険制度 C 法規、関連制度 a 国際疾病分類(International Statistical Classification 念と分類 of Diseases and Related Health Problems, ICD) b 国際上活機能分類(International Classification of Functioning, Disability and Health, ICF) E 臨床疫学 E 臨床疫学 a 記述統計 b 感度、特異度 G エビデンスに基づく 理学療法 a 記述統計 B 感力ドライン a 推奨グレード i 超和 I 過程 a スクリーニング b 評価 C 治療計画 a 気行り c 治療計画 C 回復期 i 注意が、報告 a 保健、医療、福祉 B 急性期 C 回復期 i 注意が売 C 回復期 i 注意が、報告 a 実売方防 C 回復期 i 注意が i 主要行防 D 維持期 E 総素時 i 主要行防 C 回復期 i 注意が防 i 主要行防 C 回復期 i 主 準定 i 主 集			
B 生命・医療倫理 a プロフェッショナリズム b ノーマライビーション C インフティムドコンセント d 御人情報保護 C 法現、関連制度 a 理学療法上及び作業療法土法 b 医療保険制度 C 方達保険制度 D 疾病・生活機能の概 念と分類 a 開際疾病分類 (International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems, ICD) b 国際失活機能分類 (International Classification of Functioning, Disability and Health, ICF) E 臨床疫学 F 医療統計 a 記述統計 D 療療力ドライン a 推奨グレード I 過程 a スクリレード I 過程 a スクリレード I 過程 a スクリレード I 過程 a スクリレード I 過程 a スクリーング b 評価 C 法協能計画 C 白海療介入 i 御療方れたコング i 御程 a スクリーード I 過程 a スクリーード I 過程 a スクリーード I 過程 a スクリーーング b 評価 C 治療介入 C 回復期 D D 維持期 E E 終末期 F 健康維持、健康増進 G 予防 a 疾病予防 b 海差予防 A 経場第 F 健康発行的 a 理学療法部門の管理運営 C 予防 a 運営売 I 研究、教育 i 細胞 C 市場	大項目	中項目	小項目
1 0 ジーマライゼーション く インフオームドコンゼント の 値人情報保護 C 法規、関連制度 0 (月前保険) D 疾病・生活機能の概 ・合う施保険制度 0 国際疾病分類(International Statistical Classification ・合う施保険制度 D 疾病・生活機能の概 ・合う施保険制度 0 国際生活機能分類(International Statistical Classification of Functioning, Disability and Health、ICF) 1 E 臨床疫学 1 1 1 1 F 医療統計 1 1 1 1 1 G エビデンスに基づく 理学療法 1 1 1 1 1 1 G エビデンスに基づく 理学療法 1	1 理学療法の基本		
C インフオームドコンセント d 値入情報保護 C 法規、関連制度 a 理学療法上なび作業療法士法 b 医療保険制度 C 法規、関連制度 a 国際疾病分類 (International Statistical Classification 念と分類 D 疾病・生活機能の概 念と分類 a 国際疾病分類 (International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems, ICD) b 国際生活機能分類 (International Classification of Functioning, Disability and Health, ICF) E 臨床疫学 F 医療統計 a 超速統計 b 感度、特異度 G エビデンスに基づく 理学療法 H 診療ガイドライン a 推奨グレード I 過程 a スクリレード I 過程 a スクリレーング b 溶液(特異度 C 泊線計画 c 治療計画 C 泊線計画 c 治療計画 C 泊線期 E 経久期 C 回復期 D D 維持期 E 経永期 F 健康維持、健康増進 G 予防 G 予防 a 探病予防 b 南発学防 c 博発予防 c 博発が防 c 博発予防 c 博発学施活的目の管理運営 b 愛全管理「(診療験管理、個人情報保護 等) 1 研究、教育 A 組織 3 理学療法学の基礎 A 組織 B 運動発現 a 運動発現機構		B 生命・医療倫理	a プロフェッショナリズム
3 理学療法上処び作業療法士法 C 法規、関連制度 2 法規、関連制度 2 法規、関連制度 2 茨病・生活機能の概 3 国際気滑分類(International Statistical Classification 3と分類 5 医療保険制度 D 疾病・生活機能の概 3 国際気滑分類(International Statistical Classification 3と分類 6 国際気滑分類(International Statistical Classification of Functioning, Disability and Health, ICF) E 臨床疫学 F 医療統計 a 記述統計 b 協康、特異度 G エビデンスに基づく 理学療法 H 診療ガイドライン a 推奨グレード I 過程 a スクリーニング b 評価 C 法療計画 0 沿線介入 e 効果判定 7 記録、報告 A 鍛成 B 急性期 C 回復期 D 維持期 E 経未期 F 健康規指, 健康増進 G 予防 a 疾病予防 b 再発予防 c 海豚等 内 植材用 E 経未期 F 健康規制, 健康増進 G 予防 a 疾病予防 b 預発が防100管理運営 b 安奈銀管理学務法部門の管理運営 <			b ノーマライゼーション
C 法規、関連制度 a 理学療法土及び作業療法土法 b 医療保険制度 c 介護保険制度 D 疾病・生活機能の類 a 国際疾病分類 (International Statistical Classification 念と分類 of Diseases and Related Health Problems, ICD) b 国際生活機能分類 (International Classification of Functioning, Disability and Health, ICF) E 臨床疫学 F 医磺統計 a 記述統計 b 感愛、特異度 G エビデンスに基づく 理学療法 H 診療ガイドライン a 推奨グレード I 過程 a スクリーニング b 評価 c 治療計画 C 治療計画 d 治療介入 e 効果判定 f 記述統計 D 強援利 E 健康 B 急性期 E 経未期 C 回復期 E 経未期 F 健康維持、健康増進 G 予防 G 予防 a 疾病予防 L 増売、運営 a 疾病予防 L 増売、運営 a 疾病予防 L 増売、運営 a 医疾病予防 L 増売、運営 a 医疾病予防 L 増売、運営 a 理学療法部門の管理運営 b 安全管理(インシデント、藤粂対策等) c 情報管理(診療録管理、個人情報保護等) I 研究、教育 3 理学療法学の影響 A 組織 a 細胞、遺伝子 B 運動発現 a 運動の発現機構 b 関節構造、関節可動域 <td></td> <td></td> <td>c インフォームドコンセント</td>			c インフォームドコンセント
2 理学療法の範囲 A 領域 a 保線 医療病・生活機能の概 a 国際疾病分類 (International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems, ICD) b 国際生活機能分類 JInternational Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems, ICD) b 国際生活機能分類 (International Statistical Classification of Functioning, Disability and Health, ICF) E 臨床疫学 F 医療統計 a 記述統計 b 感疫、特異度 G エビデンスに置づく 理学療法 H 診療ガイドライン a 推奨グレード I 過程 a スクリーニング b 評価 C 治療計画 (治療介入、e 効果判定 f 記録、報告 B 急性期 C 回復期 D 維持期 E 終末期 F 健康維持、健康増進 G 予防 a 疾病予防 b 再発予防 c 前属主予防 H 管理、運営 a 理学療法部門の管理運営 b 安全管理((インシデント、酸基対策 等) c 情報管理(診療験管理、個人情報保護 等) I 研究、教育 A 組織 4 細胞、遺伝子 B 運動発現 a 運動の発現機構			d 個人情報保護
C 介護保険制度 D 疾病・生活機能の概 念と分類 a 国際疾病分類 (International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems, ICD) b 国際生活機能分類 (International Classification of Functioning, Disability and Health, ICF) E 臨床疫学 F 医療統計 a 記述統計 b 感度、特異度 G エビデンスに基づく 理学療法 H 診療ガイドライン A 領域 a スクリーニング b 評価 C 治療計画 d 治療介入 e 効果判定 f 記録、報告 A 領域 a 保健、医療、福祉 B 急性期 C 回復期 D 維持期 E 経未期 C 直接離特, 健康増進 F 健康維持、健康増進 G 予防 a 疾病予防 b 消発子防 c 南差予防 H 管理、運営 a 理学療法部門の管理運営 b 資金管理 (必必承対策 等) c 情報管理 (診療部管理、個人情報保護 等) I 研究、教育 3 理学療法学の基礎 A 組織 a 運動発現 b 調節発見 c 情報管理		C 法規、関連制度	a 理学療法士及び作業療法士法
D 疾病・生活機能の概 念と分類 a 国際疾病分類 (International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems, ICD) b 国際生活機能分類 (International Classification of Functioning, Disability and Health, ICF) E 臨床疫学 F 医療統計 a 記述統計 b 感疫、特異度 G エビデンスに基づく 理学療法 H 診療ガイドライン a 推奨グレード I 過程 a スクリーニング b 評価 C 治療計画 G 流行入 e 効果判定 b 評価 C 治療計画 G 治療介入 e 効果判定 C 印復期 A 領域 B 急性期 C 回復期 D 維持期 E 経末期 F 健康維持、健康増進 G 予防 G 予防 a 疾病予防 b 再発予防 c 障害予防 H 管理、運営 a 実病予防 b 再発予防 I 簡定、薬館 a 理学療法部門の管理運営 I 研究、教育 I 研究、教育 3 理学療法学の基礎 A 組織 a 細胞、遺伝子 B 連動発現 a 運動の発現機構 b 運動発現 a 運動の発現機構			b 医療保険制度
念と分類 of Diseases and Related Health Problems, ICD) b 国際生活機能分類 (International Classification of Functioning, Disability and Health, ICF) E 臨床疫学 F 医療統計 a 記述統計 b 感度、特異度 G エビデンスに基づく 理学療法 H 診療ガイドライン A 撥域 a スクリーニング I 過程 a スクリーニング I 過程 a スクリーニング I 過程 a 保健、医療、福祉 B 急性期 C 回復期 D 維持期 E 終末期 F 健康維持、健康増進 G 予防 a 疾病予防 b 南発予防 c 障害予防 H 管理、運営 a 理学療法部門の管理運営 I 研究、教育 3 理学療法学の基礎 A 組織 B 運動発現 a 細胞、遺伝子 B 運動発現 a 運動発現機構 b 運動発現 a 運動発現機構			c 介護保険制度
b 国際生活機能分類(International Classification of Functioning, Disability and Health、ICF> E 臨床疫学 F 医療統計 a 記述統計 b 感覚、特異度 G エビデンスに基づく 理学療法 H 診療ガイドライン a 推奨グレード I 過程 a スクリーニング b 評価 c 治療計画 c 治療計画 d 法強介入 e 効果判定 f 記録、報告 2 理学療法の範囲 A 領域 a 保健、医療、福祉 B 急性期 C 回復期 D 維持期 E 終末期 F 健康維持、健康増進 G 予防 a 疾病予防 F 健康維持、健康増進 G 予防 a 疾病予防 c 消費音予防 A 組織 1 研究、教育 3 理学療法学の基礎 A 組織 A 組織 a 細胞、遺伝子 B 運動発現 a 運動の発現機構		D 疾病・生活機能の概	a 国際疾病分類〈International Statistical Classification
Functioning, Disability and Health、ICF> E 臨床疫学 F 医療統計 a 記述統計 b 感度、特異度 G エビデンスに基づく 理学療法 H 診療ガイドライン a 推奨グレード I 過程 a スクリーニング b 評価 c 治療計画 c 治療計画 d 治療介入 e 効果判定 f 記録、報告 7 記録、報告 8 急性期 C 回復期 D D 維持期 E E 総末期 F 健康維持、健康増進 G 予防 a 疾病予防 D 種特期 E F 健康維持、健康増進 G 予防 G 予防 a 疾病予防 b 声発予防 c 情報管理(診療録管理、個人情報保護等) 1 研究、教育 1 3 理学療法学の基礎 A 組織 a 細胞、遺伝子 B 運動発現 a 運動の発現機構		念と分類	of Diseases and Related Health Problems $\ \mbox{ICD} \rangle$
E 臨床疫学 a 記述統計 F 医療統計 a 記述統計 b 感度、特異度 G エビデンスに基づく 理学療法 H 診療力イドライン a 推奨グレード I 過程 a スクリーニング b 評価 c 治療計画 d 治療介入 e 効果判定 f 記録、報告 A 領域 B 急性期 C 回復期 D 維持期 E 終末期 F 健康維持、健康増進 G 予防 G 予防 a 疾病予防 b 再発予防 c 障害予防 H 管理、運営 a 理学療法部門の管理運営 b 安全管理(インシデント)、感染対策等) c 情報管理(認療録管理、個人情報保護等) 3 理学療法学の基礎 A 組織 a 細胞、遺伝子 B 運動発現 a 運動の発現機構			b 国際生活機能分類〈International Classification of
F 医療統計 a 記述統計 G エピデンスに基づく 理学療法			Functioning, Disability and Health、ICF \rangle
B 感度、特異度 G エビデンスに基づく 理学療法		E 臨床疫学	
G エビデンスに基づく 理学療法 H 診療ガイドライン a 推奨グレード I 過程 a スクリーニング b 評価 c 治療計画 C 治療計画 d 治療介入 e 効果判定 f 記録、報告 7 記録 B 急性期 C 回復期 D 維持期 E 終末期 F 健康維持、健康増進 G 予防 a 疾病予防 b 再発予防 c 博香学防 H 管理、運営 a 理学療法部門の管理運営 b 安全管理(インジデント、感染対策等) c 情報管理(診療録管理、個人情報保護等) 3 理学療法学の基礎 A 組織 a 細胞、遺伝子 B 運動発現 a 運動の発現機構		F 医療統計	a 記述統計
理学療法 H 診療ガイドライン a 推奨グレード I 過程 a スクリーニング b 評価 c 治療計画 c 治療計画 d 治療介入 e 効果判定 f 記録、報告 2 理学療法の範囲 A 領域 a 保健、医療、福祉 B 急性期 C C 回復期 C D 維持期 E E 終末期 F F 健康維持、健康増進 G 予防 G 予防 a 疾病予防 L 管理、運営 a 理学療法部門の管理運営 b 安全管理(インシデント、感染対策等) c 情報管理(診療録管理、個人情報保護等) I 研究、教育 I 3 理学療法学の基礎 A 組織 a 細胞、遺伝子 B 運動発現 a 運動の発現機構			b 感度、特異度
H 診療ガイドライン a 推奨グレード I 過程 a スクリーニング b 評価 c 治療計画 c 治療計画 d 治療介入 e 効果判定 f 記録、報告 7 記録、報告 2 理学療法の範囲 A 領域 a 保健、医療、福祉 B 急性期		G エビデンスに基づく	
I 過程 a スクリーニング b 評価 c 治療計画 c 治療計画 d 治療介入 e 効果判定 f 記録、報告 2 理学療法の範囲 A 領域 a 保健、医療、福祉 B 急性期 C 回復期 D 維持期 E 終末期 F 健康維持、健康増進 G 予防 a 疾病予防 b 再発予防 c 障害予防 H 管理、運営 a 理学療法部門の管理運営 b 安全管理(インシデント、感染対策等) c 情報管理(診療録管理、個人情報保護等) I 研究、教育 3 理学療法学の基礎 A 組織 a 細胞、遺伝子 B 運動発現 a 運動の発現機構 b 関節構造、関節可動域		理学療法	
2 理学療法の範囲 A 領域 a 保健、医療、福祉 2 理学療法の範囲 A 領域 a 保健、医療、福祉 B 急性期 - C 回復期 - D 維持期 - E 終末期 - F 健康維持、健康増進 - G 予防 a 疾病予防 b 再発予防 - c 回復期 - D 維持期 - E 終末期 - F 健康維持、健康増進 - G 予防 a 疾病予防 b 再発予防 - c 障害予防 - H 管理、運営 a 理学療法部門の管理運営 b 安全管理(インシデント、感染対策等) - c 情報管理(診療録管理、個人情報保護 等) - 1 研究、教育 - 3 理学療法学の基礎 A 組織 a 細胞、遺伝子 B 運動発現 - - B 運動発現 - -		Η 診療ガイドライン	a 推奨グレード
2 理学療法の範囲 A 領域 a 保健、医療、福祉 2 理学療法の範囲 A 領域 a 保健、医療、福祉 B 急性期		I 過程	a スクリーニング
2 理学療法の範囲 A 領域 a 保健、医療、福祉 2 理学療法の範囲 A 領域 a 保健、医療、福祉 B 急性期 - C 回復期 - D 維持期 - E 終末期 - F 健康維持、健康増進 - G 予防 a 疾病予防 b 再発予防 - c 障害予防 - H 管理、運営 a 理学療法部門の管理運営 b 安全管理(インシデント、感染対策等) - c 情報管理(診療録管理、個人情報保護等) - 1 研究、教育 - 3 理学療法学の基礎 A 組織 a 細胞、遺伝子 B 運動発現 a 運動の発現機構 b 関節構造、関節可動域 -			b 評価
e 効果判定 f 記録、報告 2 理学療法の範囲 A 領域 a 保健、医療、福祉 B 急性期 C 回復期 D 維持期 E 終末期 F 健康維持、健康増進 G 予防 a 疾病予防 b 再発予防 c 障害予防 H 管理、運営 a 理学療法部門の管理運営 b 安全管理(インシデント、感染対策等) c 情報管理(診療録管理、個人情報保護等) I 研究、教育 3 理学療法学の基礎 A 組織 A 組織 a 細胞、遺伝子 B 運動発現 b 関節構造、関節可動域			c 治療計画
f 記録、報告 2 理学療法の範囲 A 領域 a 保健、医療、福祉 B 急性期			
2 理学療法の範囲 A 領域 a 保健、医療、福祉 B 急性期 C C 回復期 D D 維持期 E E 終末期 F F 健康維持、健康増進 G G 予防 a 疾病予防 b 再発予防 c 障害予防 H 管理、運営 a 理学療法部門の管理運営 b 安全管理(インシデント、感染対策等) c 情報管理(診療録管理、個人情報保護等) I 研究、教育 I 研究、教育 3 理学療法学の基礎 A 組織 a 細胞、遺伝子 B 運動発現 a 運動の発現機構 b 関節構造、関節可動域 b 関節構造、関節可動域			
B 急性期 C 回復期 D 維持期 E 終末期 F 健康維持、健康増進 G 予防 a 疾病予防 b 再発予防 c 障害予防 H 管理、運営 a 理学療法部門の管理運営 b 安全管理(インシデント、感染対策等) c 情報管理(診療録管理、個人情報保護等) I 研究、教育 3 理学療法学の基礎 A 組織 a 細胞、遺伝子 B 運動発現 a 運動の発現機構 b 関節構造、関節可動域			
C 回復期 D 維持期 E 終末期 F 健康維持、健康増進 G 予防 a 疾病予防 b 再発予防 c 障害予防 H 管理、運営 a 理学療法部門の管理運営 b 安全管理(インシデント、感染対策等) c 情報管理(診療録管理、個人情報保護等) 1 研究、教育 3 理学療法学の基礎 A 組織 a 細胞、遺伝子 B 運動発現 a 運動の発現機構 b 関節構造、関節可動域	2 理学療法の範囲		a 保健、医療、福祉
D 維持期 E 終末期 F 健康維持、健康増進 G 予防 a 疾病予防 b 再発予防 c 障害予防 H 管理、運営 a 理学療法部門の管理運営 b 安全管理(インシデント、感染対策等) c 情報管理(診療録管理、個人情報保護等) I 研究、教育 3 理学療法学の基礎 A 組織 a 細胞、遺伝子 B 運動発現 a 運動の発現機構 b 関節構造、関節可動域 b 関節構造、関節可動域			
E 終末期 F 健康維持、健康増進 G 予防 a 疾病予防 b 再発予防 c 障害予防 C 障害予防 H 管理、運営 A 理学療法部門の管理運営 b 安全管理(インシデント、感染対策等) c 情報管理(診療録管理、個人情報保護等) I 研究、教育 A 組織 B 運動発現 A 2 運動の発現機構 b 関節構造、関節可動域			
F 健康維持、健康増進 - G 予防 a 疾病予防 b 再発予防 - c 障害予防 - H 管理、運営 a 理学療法部門の管理運営 b 安全管理(インシデント、感染対策等) - c 情報管理(診療録管理、個人情報保護等) - 1 研究、教育 - 3 理学療法学の基礎 A 組織 a 細胞、遺伝子 B 運動発現 a 運動の発現機構 b 関節構造、関節可動域 -			
G 予防 a 疾病予防 b 再発予防 c 障害予防 c 障害予防 a 理学療法部門の管理運営 b 安全管理(インシデント、感染対策等) c 情報管理(診療録管理、個人情報保護等) I 研究、教育 I 研究、教育 3 理学療法学の基礎 A 組織 a 細胞、遺伝子 B 運動発現 a 運動の発現機構 b 関節構造、関節可動域 b 関節構造、関節可動域			
b 再発予防 c 障害予防 H 管理、運営 a 理学療法部門の管理運営 b 安全管理(インシデント、感染対策等) c 情報管理(診療録管理、個人情報保護等) I 研究、教育 3 理学療法学の基礎 A a B 運動発現 a 運動の発現機構 b 関節構造、関節可動域			
c 障害予防 H 管理、運営 a 理学療法部門の管理運営 b 安全管理(インシデント、感染対策等) c 情報管理(診療録管理、個人情報保護等) I 研究、教育 3 理学療法学の基礎 A 組織 a 細胞、遺伝子 B 運動発現 a 運動の発現機構 b 関節構造、関節可動域		G 予防	
H 管理、運営 a 理学療法部門の管理運営 b 安全管理(インシデント、感染対策等) c 情報管理(診療録管理、個人情報保護等) I 研究、教育 3 理学療法学の基礎 A 組織 a 細胞、遺伝子 B 運動発現 b 関節構造、関節可動域			b 再発予防
b 安全管理(インシデント、感染対策等) c 情報管理(診療録管理、個人情報保護等) I 研究、教育 3 理学療法学の基礎 A 組織 a 細胞、遺伝子 B 運動発現 a 運動の発現機構 b 関節構造、関節可動域			
c 情報管理(診療録管理、個人情報保護等) I 研究、教育 3 理学療法学の基礎 A 組織 B 運動発現 a 運動の発現機構 b 関節構造、関節可動域		H 管理、運営	a 理学療法部門の管理運営
I 研究、教育 3 理学療法学の基礎 A 組織 a 細胞、遺伝子 B 運動発現 a 運動の発現機構 b 関節構造、関節可動域			b 安全管理(インシデント、感染対策 等)
3 理学療法学の基礎 A 組織 a 細胞、遺伝子 B 運動発現 a 運動の発現機構 b 関節構造、関節可動域			c 情報管理(診療録管理、個人情報保護 等)
B 運動発現 a 運動の発現機構 b 関節構造、関節可動域		I 研究、教育	
b 関節構造、関節可動域	3 理学療法学の基礎	A 組織	a 細胞、遺伝子
k		B 運動発現	a 運動の発現機構
この 筋収縮、 筋機能			b 関節構造、関節可動域
			c 筋収縮、筋機能

I 基礎理学療法学

Ⅰ 基礎理学療法学

I 基礎理学療法学

大項目	中項目	小項目
3 理学療法学の基礎	C 運動制御	a 運動の制御機構
		b 随意運動のメカニズム
		c 中枢神経系
		d 末梢神経系
	D エネルギー供給	a 呼吸
		b 循環
		c 代謝
		d 消化、吸収
	E 認知	a 感覚、知覚
		b 認知
	F 情緒、心理	a 意欲
		b ライフサイクル
		c 障害受容
	G 基本動作	
	H 歩行	
	I 動作障害	
	J 運動学習	a 運動学習理論
		b 条件付け、フィードバック
		c 可塑性、再組織化
	K 痛み	a 分類
		b メカニズム
		c 制御機構
	L 疲労	a 末梢性疲労
		b 中枢性疲労
	M 発達	a 正常発達
		b 運動・精神の発達遅滞
	N 加齢	a 生理的変化
		b 社会的変化
	0 コミュニケーション	
	P 活動、参加	a 日常生活活動〈ADL〉、生活関連活動〈IADL〉 b 参加
	Q QOL (quality of	a 健康関連QOL〈HRQOL〉 等
	life〉	
	R 環境	a 環境の構造
		b 環境と個体
	1	

Π	理学療法評価学
---	---------

		小項目
大項目	中項目	小
1 目的	A 評価の目的	
2 時期と手順	A スクリーニング	
	B 初期・中期・最終	
		a 検査・画像所見等
	D 評価計画の立案と説	
	明	
	E 評価の実施	a 観察
		b 面接
		c 検査
		d 測定
	F 解釈、統合	
	G問題点・利点の抽出	
	H 目標設定	
3 心身機能、身体構造	A 全身状態、局所所見	
		b バイタルサイン
		C 栄養状態
		d 皮膚 (褥瘡を含む)
		e 排尿、排便 f 浮腫
		」 _{ア脾} g 摂食・嚥下
		g _{反良} ・嚥下 a 呼吸機能
		b 循環機能
		- C 全身持久力
		d 酸素・エネルギー供給
		e 代謝機能
		a 反射
		b 身体計測(四肢長、周径)
		c 関節可動域
		 d 筋力
		e 持久力(局所、全身)
		f 協調機能
		g 平衡機能
	D 歩行・運動パターン	
	 E 感覚	a 体性感覚(表在感覚、深部感覚)
		b 特殊感覚
		c 脳神経(感覚系)
	F 痛み	a 痛みの分類

Ⅱ 理学療法評価学

大項目	中項目	小項目
3 心身機能、身体構造	G 発達	a 全般的発達検査(改訂日本版デンバー式発達スクリーニ
		ング検査〈JDDST-R〉、遠城寺式乳幼児分析的発達検
		査、子どもの能力低下評価法(PEDI〉等)
		b 姿勢反射
		c 粗大運動能力尺度〈gross motor function measure、
		GMFM〉、粗大運動能力分類システム〈gross motor
		function classification system、GMFCS〉
	H 高次脳機能	a 感情
		b 注意
		c 記憶
		d 認知、行為、コミュニケーション
		e 遂行機能、前頭葉機能
4 活動、参加		a 起居、移乗、移動
	C 日常生活活動〈ADL〉	·
		b 排泄 c 更衣
		c 史公 d 整容
		u 亚母 e 入浴
		f コミュニケーション
		- ニーニー クロン g ADL検査(FIM、Barthel index等)
		h 生活関連活動〈IADL〉
	 D 参加	a 職業
		b 社会交流
5 背景因子等	A 個人因子	
	B 環境因子	a 家族、家庭
		b 住環境
		c 地域環境
		d 職場環境
	C QOL (quality of	
	life〉	
6 義肢、装具等	A 義肢、装具等	a 義肢(義手、義足)
		b 装具(上肢、下肢、体幹)
		c 車椅子、座位保持装置
		d 移乗機器
		e 歩行補助具
		f 適合評価

大項目	中項目	小項目
7 疾患、障害	A 骨関節	a 変形性関節症
		b 骨折、脱臼、靭帯損傷
		c 関節リウマチとその近縁疾患
		· d スポーツ外傷・暗害
		e 外傷、障害
		f 脊椎疾患
		g 腰痛症
		9 ^{波神症} h 切断 (先天奇形を含む)
		L
		i 肩関節周囲炎、腱板損傷
		j 骨壊死性疾患(大腿骨頭壊死を含む)
		k 骨形成不全
	B 中枢神経	a 脳血管障害(片麻痺を含む)
		b Parkinson病とその関連疾患
		c 脊髄小脳変性症〈SCD〉
		d 筋萎縮性側索硬化症〈ALS〉
		e 多発性硬化症〈MS〉
		f 外傷性脳損傷〈TBI〉
		g 脊髄損傷(頸髄損傷を含む)
		h 脳腫瘍
	 C 末梢神経、筋	a 筋ジストロフィー
		b 多発性筋炎、皮膚筋炎
		d ニューロパチー(Guillain-Barré症候群を含む)
		e 末梢神経損傷(腕神経叢損傷、絞扼性末梢神経損傷を含
	 D 発達	a 脳性麻痺
		b 二分脊椎
		C 運動発達遅滞
		d Down症候群
		e 骨系統疾患
	E 呼吸器	a 急性呼吸不全
		b 慢性閉塞性肺疾患〈COPD〉
	F 循環器	a 虚血性心疾患(心筋梗塞、狭心症)
		b 閉塞性動脈硬化症
		c Raynaud症候群
	G 代謝	a 糖尿病
		b 肥満
		c 慢性腎臓病
	 H 感覚器	
		 b 聴覚・前庭障害
	 I 廃用症候群	
	」 1 悪性腫瘍	
		1

Ⅱ 理学療法評価学

大項目	中項目	小項目
7 疾患、障害	K 認知障害	a 認知症
		b 高次脳機能障害(失語、失行、失認等)
	L 有痛性疾患・障害	a 急性痛
		b 慢性痛
	M 熱傷	
	Ν その他の疾患・障害	a 摂食・嚥下障害
		b 排尿障害
		C 褥瘡
		d 精神科疾患
		e 産科・婦人科領域の疾患
8 保健、予防	A 健康維持、健康増進	
	B 産業理学療法	

Ⅱ 理学療法評価学

Ⅲ 理学療法治療学

1 基礎 A 目的 B リスク管理 a 疾患別 b 病期別 c ラインステージ別 d 病症の予防と治療 e 転倒の予防と治療 c 転倒の予防と治療 e 転倒の予防と治療 c 方くジステージ別 d 病症の予防と治療 e 転倒の予防と治療 c 方くジステージ別 d 病症の予防と治療 e 転倒の予防と治療 c 方りにと治療 f 救急措置 a 全身調整運動 b 関節可動域重動 c 防力増加運動 c 防力増加運動 d ストレッチング e 防雨教育 f 防持久力 h 感覚・知覚内教育 i 協調運動 j バランス練習 k 基本動作練習 i 法事動学習 o 発達阿擦法 p 各種の治療法技 p 各種の治療法 p 名類や療法 c 電磁波療法 f 水治療法 g 薬引療法 c 電磁波療法 f 水治療法 g 薬引療法 c 電磁波療法 c 電磁波療法	大項目	中項目	小項目
2 基本介入手段 A 運動療法	1 基礎	A 目的	
c ライフステージ別 d 褥瘡の予防と治療 e 転倒の予防と治療 f 救急措置 a 全身調整運動 b 関節可動或運動 c 防力増強運動 d ストレッチング e 筋再教育 f 筋持久力 g 全身持久力 h 感覚・知覚再教育 i 協調運動 j パランス練習 k 基本動作練習 i 上方練習 o 発達障害に対する運動療法 p 各種の治療手技 B 物理療法 a 温静・寒冷療法 c 電磁波療法 f 水治療法 g 牽引療法 f 水治療法 g 牽引療法 h マッサージ		B リスク管理	a 疾患別
2 基本介入手段 A 運動療法 a 全身調整運動 2 基本介入手段 A 運動療法 a 全身調整運動 b 関節可動域運動 c 筋力増強運動 c 防力増強運動 d ストレッチング e 筋肉教育 f 筋持久力 g 全身持久力 h 感覚・知覚再教育 i 協調運動 j パランス練習 k 基本動作練習 j パランス練習 i 協調運動 j パランス練習 c 熟力作練習 j パランス線習 k 基本動作練習 j パラン運動療法 p 各種の治療手技 B 物理療法 a 温熱・寒冷療法 j 光行練習 c 電磁波療法 j 光線療法 c 電磁波療法 j 光線療法 c 電台液療法 j 米海療法 j 水白漆療法 j 光音療法			
e<転倒の予防と治療 2 基本介入手段 A 運動療法 a 全身調整運動 b<関節可動域運動			c ライフステージ別
1 f 救急措置 2 基本介入手段 A 運動療法 a 全身調整運動 b 関節可動域運動 c 筋力増強運動 c 筋力増強運動 d ストレッチング e 筋再教育 f 筋持久力 g 全身持久力 h 感覚・知覚再教育 i 協調運動 j バランス練習 k 基本動作練習 j バランス練習 i 協調運動 j バランス練習 i 協調運動 j バランス練習 i 協調運動 j 水ランオ i 協調 j 水ランス練習 i 協調 j 水ランス練習 i 協調 j 水ランス線習 i 協調 j 水ランス線習 i 協調 j 水ランス線習 i 協調 j 水ランス線習 i 協調 j 水ランス線 i 協調 j 水気 j 御う j 水気 j 電力 j ション j 御う j ション j 本 j ション j 本 j ション j 本 j ション j 本 j ション j 本			d 褥瘡の予防と治療
2 基本介入手段 A 運動療法 a 全身調整運動 b 関節可動域運動 c 筋力増強運動 c 筋力増強運動 d ストレッチング e 筋再教育 f 筋持入力 g 全身持久力 h 感覚・知覚再教育 i 協調運動 j パランス練習 k 基本動作練習 l 歩行練習 i 歩行練習 n 通動学習 o 発達障害に対する運動療法 p 各種の治療手技 B 物理療法 a 温熱・寒冷療法 c 電磁波療法 c 電磁波療法 f 水治療法 g 牽引療法 f 水治療法 g 牽引療法			e 転倒の予防と治療
b 関節可動域運動 c 筋力増強運動 d ストレッチング e 筋再教育 f 筋持久力 g 全身持久力 h 感覚・知覚再教育 i 協調運動 j バランス練習 k 基本動作練習 l 歩行練習 m 痛みに対する運動療法 p 各種の治療手技 B 物理療法 a 温熱・寒冷療法 b 電気刺激療法 c 電磁波療法 f 水治療法 g 牽引療法 h マッサージ			f 救急措置
c 筋力増強運動 d ストレッチング e 筋再教育 f 筋持久力 g 全身持久力 h 感覚・知覚再教育 i 協調運動 j バランス練習 k 基本動作練習 l 歩行練習 m 痛みに対する運動療法 p 各種の治療手技 B 物理療法 a 温熱・寒冷療法 b 電気刺激療法 c 電磁波療法 f 水治療法 g 牽引療法 h マッサージ	2 基本介入手段	A 運動療法	·
d ストレッチング e 筋雨教育 f 筋持久力 g 全身持久力 h 感覚・知覚再教育 i 協調運動 j バランス練習 k 基本動作練習 m 痛みに対する運動療法 n 運動学習 o 発達障害に対する運動療法 p 各種の治療手技 B 物理療法 e 超合波療法 c 電磁波療法 c 電磁波療法 f 水治療法 g 牽引療法 h マッサージ			·
e 筋雨教育 f 筋持久力 g 全身持久力 h 感覚・知覚雨教育 i 協調運動 j バランス練習 k 基本動作練習 l 歩行練習 i 歩行練習 m <r></r> m 痛みに対する運動療法 n 運動学習 o 発達障害に対する運動療法 p 各種の治療手技 B 物理療法 a 温熱・寒冷療法 c 電磁波療法 c 電磁波療法 f 水治療法 g 牽引療法 f 水治療法 j 薬引療法 f 水治療法			c 筋力増強運動
f 筋持久力 g 全身持久力 h 感覚・知覚再教育 i 協調運動 j パランス練習 k 基本動作練習 l 歩行練習 m 痛みに対する運動療法 n 運動学習 o 発達障害に対する運動療法 p 各種の治療手技 B 物理療法 a 温熱・寒冷療法 c 電磁波療法 c 電磁波療法 f 水治療法 g 牽引療法 h マッサージ			d ストレッチング
g 全身持久力 h 感覚・知覚再教育 i 協調運動 j バランス練習 k 基本動作練習 l 歩行練習 m 痛みに対する運動療法 n 運動学習 o 発達障害に対する運動療法 p 各種の治療手技 B 物理療法 a 温熱・寒冷療法 b 電気刺激療法 c 電磁波療法 f 水治療法 g 牽引療法 h マッサージ			e 筋再教育
h 感覚・知覚再教育 i 協調運動 j バランス練習 k 基本動作練習 l 歩行練習 m 痛みに対する運動療法 n 運動学習 o 発達障害に対する運動療法 p 各種の治療手技 B 物理療法 a 温熱・寒冷療法 c 電磁波療法 d 光線療法 e 超音波療法 f 水治療法 g 牽引療法 h マッサージ			f 筋持久力
i 協調運動 j バランス練習 k 基本動作練習 l 歩行練習 m 痛みに対する運動療法 n 運動学習 o 発達障害に対する運動療法 p 各種の治療手技 B 物理療法 a 温熱・寒冷療法 b 電気刺激療法 c 電磁波療法 d 光線療法 e 超音波療法 f 水治療法 g 牽引療法 h マッサージ			g 全身持久力
j バランス練習 k 基本動作練習 l 歩行練習 m 痛みに対する運動療法 n 運動学習 o 発達障害に対する運動療法 p 各種の治療手技 B 物理療法 a 温熱・寒冷療法 b 電気刺激療法 c 電磁波療法 d 光線療法 e 超音波療法 f 水治療法 g 牽引療法 h マッサージ			h 感覚・知覚再教育
k 基本動作練習 l 歩行練習 m 痛みに対する運動療法 n 運動学習 o 発達障害に対する運動療法 p 各種の治療手技 B 物理療法 a 温熱・寒冷療法 c 電磁波療法 d 光線療法 e 超音波療法 f 水治療法 g 牽引療法 h マッサージ			i 協調運動
I 歩行練習 m 痛みに対する運動療法 n 運動学習 o 発達障害に対する運動療法 p 各種の治療手技 B 物理療法 a 温熱・寒冷療法 b 電気刺激療法 c 電磁波療法 d 光線療法 e 超音波療法 f 水治療法 g 牽引療法 h マッサージ			j バランス練習
m 痛みに対する運動療法 n 運動学習 o 発達障害に対する運動療法 p 各種の治療手技 B 物理療法 a 温熱・寒冷療法 b 電気刺激療法 c 電磁波療法 d 光線療法 e 超音波療法 f 水治療法 g 牽引療法 h マッサージ			k 基本動作練習
n 運動学習 o 発達障害に対する運動療法 p 各種の治療手技 B 物理療法 a 温熱・寒冷療法 b 電気刺激療法 c 電磁波療法 d 光線療法 e 超音波療法 f 水治療法 g 牽引療法 h マッサージ			歩行練習
o 発達障害に対する運動療法 p 各種の治療手技 B 物理療法 a 温熱・寒冷療法 b 電気刺激療法 c 電磁波療法 d 光線療法 e 超音波療法 f 水治療法 g 牽引療法 h マッサージ			m 痛みに対する運動療法
p 各種の治療手技 B 物理療法 a 温熱・寒冷療法 b 電気刺激療法 c 電磁波療法 d 光線療法 e 超音波療法 f 水治療法 g 牽引療法 h マッサージ			n 運動学習
B 物理療法 a 温熱・寒冷療法 b 電気刺激療法 c 電磁波療法 d 光線療法 e 超音波療法 f 水治療法 g 牽引療法 h マッサージ			o 発達障害に対する運動療法
b 電気刺激療法 c 電磁波療法 d 光線療法 e 超音波療法 f 水治療法 g 牽引療法 h マッサージ			p 各種の治療手技
c 電磁波療法 d 光線療法 e 超音波療法 f 水治療法 g 牽引療法 h マッサージ		B 物理療法	a 温熱・寒冷療法
d 光線療法 e 超音波療法 f 水治療法 g 牽引療法 h マッサージ			b 電気刺激療法
e 超音波療法 f 水治療法 g 牽引療法 h マッサージ			c 電磁波療法
f 水治療法 g 牽引療法 h マッサージ			d 光線療法
g 牽引療法 h マッサージ			e 超音波療法
h マッサージ			f 水治療法
			g 牽引療法
C 義肢、装具等を用い a 義肢(義手、義足)			h マッサージ
る療法 b 装具(上肢、下肢、体幹)			·
c 車椅子、座位保持装置			
d 移乗機器			L
e 步行補助具			
f 適合技術			

大項目 中項目 小項目 3 心身機能、身体構造 A 全身状態、局所所見 a 意識、覚醒 b バイタルサイン c 栄養状態 d 皮膚 (褥瘡を含む) e 排尿、排便 f 浮腫 g 摂食・嚥下 B 呼吸、循環、代謝 a 呼吸機能 b 循環機能 c 全身持久力 d 酸素・エネルギー供給 e 代謝機能 C 運動 a 関節可動域 b 筋力 c 持久力(局所、全身) d 協調機能 e 平衡機能 f 脳神経(運動系) D 歩行・運動パターン E 感覚 a 体性感覚(表在感覚、深部感覚) b 特殊感覚 c 脳神経(感覚系) F 痛み a 急性痛 b 慢性痛 c 包括的アプローチ G 発達 a 運動発達 b 通学・通級支援 H 高次脳機能 a 感情 b 注意 c 記憶 d 認知、行為、コミュニケーション e 遂行機能、前頭葉機能 a 起居、移乗、移動 4 活動、参加 A 基本動作 B 歩行 C 日常生活活動〈ADL〉: a 食事 b 排泄 c 更衣 d 整容 e 入浴 f コミュニケーション g 生活関連活動〈IADL〉

Ⅲ 理学療法治療学

Ⅲ 理学療法治療学

大項目	中項目	小項目
4 活動、参加	D 参加	a 職業
		b 社会交流
5 背景因子等	A 個人因子	
	B 環境因子	a 家族、家庭
		b 住環境
		c 地域環境
		d 職場環境
	C QOL (quality of	
	life〉	
6 疾患、障害	A 骨関節	a 変形性関節症
		b 骨折、脱臼、靭帯損傷
		c 関節リウマチとその近縁疾患
		d スポーツ外傷・障害
		e 外傷、障害
		f 脊椎疾患
		g 腰痛症
		h 切断 (先天奇形を含む)
		i 肩関節周囲炎、腱板損傷
		j 骨壊死性疾患(大腿骨頭壊死を含む)
		k 骨形成不全
	B 中枢神経	a 脳血管障害(片麻痺を含む)
		b Parkinson病とその関連疾患
		c 脊髄小脳変性症(SCD〉
		d 筋萎縮性側索硬化症〈ALS〉
		e 多発性硬化症〈MS〉
		f 外傷性脳損傷〈TBI〉
		g 脊髄損傷(頸髄損傷を含む)
		h 脳腫瘍
	C 末梢神経、筋	a 筋ジストロフィー
		b 多発性筋炎、皮膚筋炎
		c 重症筋無力症
		d ニューロパチー(Guillain-Barré症候群を含む)
		e 末梢神経損傷(腕神経叢損傷、絞扼性末梢神経損傷を含
		む)
	 D 発達	a 脳性麻痺
		b 二分脊椎
		c 運動発達遅滞
		d Down症候群
		e 骨系統疾患
		a 急性呼吸不全
		b 慢性閉塞性肺疾患〈COPD〉
	1	

大項目	中項目	小項目
6 疾患、障害		a 虚血性心疾患(心筋梗塞、狭心症)
		b 閉塞性動脈硬化症
		c Raynaud症候群
	G 代謝	a 糖尿病
		b 肥満
		c 慢性腎臓病
	H 感覚器	a 視覚障害を合併する歩行・生活指導
		b 前庭性めまいに対する運動療法
	I 廃用症候群	
	J 悪性腫瘍	
	K 認知障害	a 認知症
		b 高次脳機能障害(失語、失行、失認等)
	L 有痛性疾患・障害	a 急性痛
		b 慢性痛
	M 熱傷	
	N その他の疾患・障害	a 摂食・嚥下障害
		b 排尿障害
		c 褥瘡
		d 精神科疾患
		e 産科・婦人科領域の疾患
7 保健、予防	A 健康維持、健康増進	
	B 産業理学療法	

Ⅲ 理学療法治療学

中項目 大項目 小項目 基礎 A 地域の概念 a 地域とは 1 b 地域における障害者(障害児)・高齢者 a 関連法規 B 法・制度と地域社会 b 地域包括ケアシステム c 社会資源 d 国際生活機能分類(International Classification of Functioning, Disability and Health, ICFe インフォームドコンセント f QOL (quality of life) g 自立生活〈independent living、IL〉、ノーマライゼー ション C 地域リハビリテー a 歴史 b 概念と動向 ション c リハビリテーションの理念 a 理念と目的 D 地域理学療法 b 多職種による協働 c 地域での連携 d 病態と病期に応じた評価と治療 e 訪問理学療法 f 通所理学療法 q 施設での理学療法 E 健康維持、健康増進 F 予防 a 疾病予防 b 再発予防 c 障害予防 G バリアフリーとユニ a 社会環境整備 b 住環境整備 バーサルデザイン c 家屋改造 H 福祉用具 a 福祉用具導入の考え方 b 代表的な福祉用具 c 自立生活支援機器 (環境制御装置等を含む) d スポーツ・レクリエーション用具 e IT・ICTの導入と展開 I 家族への指導 a 家族等への指導支援の目的 b 介助・支援方法

Ⅳ 地域理学療法学

大項目	中項目	小項目
2 評価と支援	A 施設入所者	a 廃用症候群
	B 在宅(訪問、通所)	b 脳血管障害
	C 維持期	A c 骨関節障害
	D 終末期	5 d 神経障害
		D e 呼吸障害
		に f 循環障害
		共 g 悪性腫瘍
		通 h 代謝障害
		i 住環境
		j 生活状況

Ⅳ 地域理学療法学

	•	
大項目	中項目	小項目
1 実習前準備	A 安全管理	a インシデント、感染対策等
	B 個人情報、情報管理	
	C 事故・過誤の対応	
	D 対人関係技法	
	E 医療面接	
	F インフォームドコン	
	セント	
	G 評価・治療技術	
	H 基本的臨床技能	
2 実習実施内容	A 情報収集	a 他部門、診療録
	B 医学的情報の理解	a 生化学検査
		b 生理検査
		c 画像検査
		d 手術記録
	C 検査、測定	a 理学療法の検査
	D 問題点の抽出	
	E 全体像の把握	
	F 目標の設定	
	G 治療プログラム立案	a 立案、実施
		b プログラム修正
	H 他部門との連携	
	I 記録、報告	a 専門用語
		b 症例報告

専 門 分 野 (作業療法)

大項目	中項目	小項目
1 作業療法の基本	A 歴史、現状	a 日本と世界の作業療法
	B 生命・医療倫理	a プロフェッショナリズム
		b ノーマライゼーション
		c インフォームドコンセント
		d 個人情報保護
	C 法規、関連制度	a 理学療法士及び作業療法士法
		b 医療保険制度
		c 介護保険制度
		d 障害者基本法
		e 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するため
		の法律〈障害者総合支援法〉
	D 疾病・生活機能の概	a 国際疾病分類(International Statistical Classification
	念と分類	of Diseases and Related Health Problems、ICD〉
		b 国際生活機能分類〈International Classification of
		Functioning, Disability and Health、ICF $ angle$
	E 臨床疫学	
	F 医療統計	a 記述統計
		b 感度、特異度
	G エビデンスに基づく	
	作業療法	
	 H 診療ガイドライン	a 推奨グレード
	 I 過程	a スクリーニング
		b 評価
		c 治療計画
		d 治療介入
		e 効果判定
		f 記録、報告
2 作業療法の範囲		a 保健、医療、福祉
		b 身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害、地域
	B 急性期	
	C 回復期	
	D 維持期	
	 E 終末期	
	F 健康維持、健康増進	
	G 予防	a 疾病予防
		c 障害予防
	 H 管理、運営	a 作業療法部門の管理運営
		b 安全管理(インシデント、感染対策 等)
		c 情報管理(診療録管理、個人情報保護 等)
L	I	

I 基礎作業療法学

大項目	中項目	小項目
2 作業療法の範囲		a 作業の研究 b 作業療法の研究(作業療法のエビデンスを含む) c 養成教育と生涯教育
3 作業療法学の基礎		a 日常生活活動〈ADL〉 b 生活関連活動〈IADL〉 c 仕事、生産的活動 d 余暇活動、遊び
		 a 身体機能 b 感覚、知覚、認知 c 情緒、感情、心理 d 意志、価値、興味 e 役割、習慣
	C 作業の分析	a 作業特性 b 作業過程 c 環境

I 基礎作業療法学

Ⅱ 作業療法評価学	Ż
-----------	---

大項目	中項目	小項目
1 目的	A 評価の目的	
2 時期と手順	A スクリーニング	
	B 初期・中期・最終	
	C 情報収集	a 検査・画像所見等
	D 評価計画の立案と説	
	明	
		a 観察
		b 面接
		C 検査
		d 測定
	G 問題点・利点の抽出	
	H 目標設定 A 全身状態、局所所見	2
3 心匀饭肥、匀种伸起		a 息識、見唯 b バイタルサイン
		C 栄養状態
		し、不良(小ぷ) d 皮膚 (褥瘡を含む)
		e 排尿、排便
		f 浮腫
		a 呼吸機能
		b 循環機能
		c 代謝機能
		d 全身持久力
	 C 摂食・嚥下	
	 D 運動	a 反射
		b 身体計測
		c 関節可動域、変形等
		d 筋力
		e 持久力(局所、全身)
		f 協調性
		g 巧緻性
		h 平衡機能
		i 脳神経(運動系)
		j 上肢の総合的機能
		a 体性感覚(表在感覚、深部感覚)
		b 特殊感覚
		c 脳神経(感覚系)
	F 痛み	a 痛みの分類

Ⅱ 作業療法評価学

大項目	中項目	小項目
3 心身機能、身体構造	G 発達	a 全般的発達(改訂日本版デンバー式発達スクリーニング
		検査〈JDDST-R〉、遠城寺式乳幼児分析的発達検査、子
		どもの能力低下評価法〈PEDI〉等)
		b 運動発達
		c 感覚、知覚、認知
		d 心理・社会的発達
	H 高次脳機能	a 感情
		b 注意
		c 記憶
		d 認知
		e 行為
		f コミュニケーション
		g 遂行機能、前頭葉機能
	Ι 精神・心理	
4 活動、参加	A 基本動作	a 起居、移乗、移動
	B 日常生活活動〈ADL〉	a 食事
		b 排泄
		c 更衣
		d 整容
		e 入浴
		f コミュニケーション
		g ADL検査(FIM、Barthel index等)
	C 生活関連活動〈IADL〉	a 家事、交通機関の利用等
	D 余暇活動、遊び	
	E 職業関連活動	a 職業前評価
		b 職業能力評価
	F 参加	a 対人技能
		b 集団技能、交流技能
		c 役割
		d 子どもの作業の発達促進
		e 家庭・地域での生活支援
5 背景因子等	A 個人因子	a 生活歴、作業歴
		b 興味、価値観
		c 作業機能自己評価
		d 生活時間

大項目 中項目 小項目 5 背景因子等 B 環境因子 a 家族、家庭 b 住環境 c 地域環境 d 職場環境 C QOL (quality of life> 6 福祉用具、義肢、装 A 義肢、装具 a 義肢(義手、義足) 具 b 装具(上肢、体幹、下肢装具) B 自助具、福祉用具 a 自助具 b 福祉用具 7 疾患、障害 Α 精神・心理 a 器質性精神障害(症状性を含む) b 精神作用物質使用による精神および行動の障害 c 統合失調症、統合失調症様障害および妄想性障害 d 気分障害 〈感情障害〉 e 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 f 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 q 成人のパーソナリティ〈人格〉及び行動の障害 h 精神遅滞(知的障害) i 心理的発達の障害(特異的発達障害、広汎性発達障害) i 小児期および青年期に通常発症する行動および情動の障 害(注意欠如・多動性障害を含む) k てんかん B 認知障害 a 認知症(BPSD〈Behavioral and Psychological symptoms of Dementia〉を含む) b 高次脳機能障害(失語、失行、失認等) C 骨関節 a 変形性関節症 b 骨折、脱臼、靭帯損傷 c 関節リウマチとその近縁疾患 d 外傷、障害 e 切断 (先天奇形を含む) f 骨形成不全 D 中枢神経 a 脳血管障害(片麻痺を含む) b Parkinson病とその関連疾患 c 脊髄小脳変性症〈SCD〉 d 筋萎縮性側索硬化症〈ALS〉 e 多発性硬化症〈MS〉 f 外傷性脳損傷〈TBI〉 q 脊髄損傷 (頸髄損傷を含む)

Ⅱ 作業療法評価学

大項目	中項目	小項目
7 疾患、障害		a 筋ジストロフィー
		b 多発性筋炎、皮膚筋炎
		c 重症筋無力症
		d ニューロパチー(Guillain-Barré症候群を含む)
		e 末梢神経損傷(腕神経叢損傷、絞扼性末梢神経損傷を含
		む)
	F 発達	a 脳性麻痺
		b 二分脊椎
		c 運動発達遅滞
		d 重症心身障害
		e Down症候群
		f 精神・心理的発達の障害(特異的発達障害、広汎性発達
		障害、注意欠如・多動性障害を含む)
	G 呼吸、循環、代謝	a 慢性閉塞性肺疾患〈COPD〉
		b 虛血性心疾患(心筋梗塞、狭心症)
		c 糖尿病
		d 腎機能障害
	H 感覚器	a 視覚障害
		b 聴覚・前庭障害
	I 廃用症候群	
	〕 悪性腫瘍	
	K 熱傷	
	L その他の疾患・障害	a 有痛性疾患・障害
8 保健、予防	A 健康維持、健康増進	
	B 産業作業療法	

Ⅱ 作業療法評価学

Ⅲ 作業療法治療学

大項目		
1 基礎	A 目的	
	B リスク管理	a 疾患別 b 病期別 c ライフステージ別 (転倒予防を含む)
		d 褥瘡の予防と治療
2 心身機能、身体構造	A 全身状態、局所所見	b バイタルサイン c 栄養状態 d 皮膚 (褥瘡を含む) e 排尿、排便
		f 浮腫
	B 呼吸、循環、代謝	a 呼吸系、循環系 b 全身調整、全身持久力
	C 摂食・嚥下	
	D 運動	a ポジショニング b 関節運動、関節保護法 c 神経・筋再教育
		d 筋力、筋持久力 e 協調性 f 巧緻性
		g バランス h 上肢の総合的機能
	E 感覚	 a 表在感覚・知覚 b 深部感覚・知覚 c 複合感覚・知覚 d その他(脳神経の感覚系を含む)
	F 痛み	a 急性痛 b 慢性痛
	G 発達	a 姿勢・運動発達 b 感覚・知覚・認知の発達 c 心理・社会的発達
	H 高次脳機能	a 感情 b 注意 c 記憶 d 認知 e 行為 f コミュニケーション
		g 遂行機能、前頭葉機能
	I 精神・心理	a 治療的態度、関わり方 b 時間、頻度
		c 場所

大項目	中項目	小項目
3 活動、参加		a 起居、移乗、移動
3 心動、参加	A 墨本動作 B 日常生活活動〈ADL〉	-
		<u>}</u>
		b 排泄
		c 更衣
		d 整容
		e 入浴
		f コミュニケーション
		a 家事、交通機関の利用等
	D 余暇活動、遊び	
	E 職業関連活動	
	F 参加	a 対人技能
		b 集団技能、交流技能
		c 役割
4 背景因子等		a 生活時間
		a 家族、家庭
		b 住環境
		c 地域環境
		d 職場環境
	C QOL (quality of	
	life>	
5 義肢、装具		a 義手
		b 装具(上肢、体幹、下肢装具)
6 疾患、障害		a 症状性を含む器質性精神障害
		b 精神作用物質使用による精神および行動の障害
		c 統合失調症、統合失調症様障害および妄想性障害
		d 気分障害〈感情障害〉
		e 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害
		f 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群
		g 成人のパーソナリティ〈人格〉及び行動の障害
		h 精神遅滞(知的障害)
		i 心理的発達の障害(特異的発達障害、広汎性発達障害)
		j 小児期および青年期に通常発症する行動および情動の障
		害(注意欠如・多動性障害を含む)
		k てんかん
	B 認知障害	a 認知症(BPSD〈Behavioral and Psychological
		symptoms of Dementia〉を含む)
		b 高次脳機能障害(失語、失行、失認等)

Ⅲ 作業療法治療学

大項目 6 疾患、障害	中 項 目 C 骨関節	小項目
6 疾患、障害	C 骨関節	
		a 変形性関節症
		b 骨折、脱臼、靭帯損傷
		c 関節リウマチとその近縁疾患
		d 外傷、障害
		e 切断 (先天奇形を含む)
		f 骨形成不全
	D 中枢神経	a 脳血管障害(片麻痺を含む)
		b Parkinson病とその関連疾患
		c 脊髄小脳変性症〈SCD〉
		d 筋萎縮性側索硬化症〈ALS〉
		e 多発性硬化症〈MS〉
		f 外傷性脳損傷〈TBI〉
		g 脊髄損傷(頸髄損傷を含む)
	E 末梢神経、筋	a 筋ジストロフィー
		b 多発性筋炎、皮膚筋炎
		c 重症筋無力症
		d ニューロパチー(Guillain-Barré症候群を含む)
		e 末梢神経損傷(腕神経叢損傷、絞扼性末梢神経損傷を含
		む)
	F 発達	a 脳性麻痺
		b 二分脊椎
		c 運動発達遅滞
		d 重症心身障害
		e Down症候群
	G 呼吸、循環、代謝	a 慢性閉塞性肺疾患〈COPD〉
		b 虚血性心疾患(心筋梗塞、狭心症)
		c 糖尿病
		d 腎機能障害
	H 感覚器	a 視覚障害
		b 聴覚・前庭障害
	I 廃用症候群	
	〕 悪性腫瘍	
	K 熱傷	
	L その他の疾患・障害	a 有痛性疾患・障害
7 保健、予防	A 健康維持、健康増進	
	B 産業作業療法	

Ⅲ 作業療法治療学

Ⅳ 地域作業療法学

大項目	中項目	小項目
1 基礎		a 地域とは
		b 地域における障害者(障害児)・高齢者
	 B 関連法規、制度	a 障害者基本法、障害者の日常生活及び社会生活を総合的
		に支援するための法律〈障害者総合支援法〉
		b 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律〈精神保健福
		社法〉
		c 心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及
		び観察等に関する法律〈医療観察法〉
		d 社会福祉制度
		e 介護保険制度
		f 社会資源
	C 地域リハビリテー	a 歴史
	ション	b 概念と動向
		c リハビリテーションの理念
	D 地域作業療法	a 理念と目的
		b 多職種による連携
		c 訪問作業療法
		d 通所作業療法
		e 施設における作業療法
		f 生活スタイルの見直しと再構築
		g 趣味・生き甲斐活動の開発と獲得
		<u>-</u> h 仲間づくり
		k QOL〈quality of life〉の維持・向上
		家族への介護指導
	E 健康維持、健康増進	
	F 予防	a 疾病予防
		b 再発予防
		c 障害予防
	G バリアフリーとユニ	a 住環境整備
	バーサルデザイン	b 家屋改造
		c 社会的環境整備の働きかけ
	H 福祉用具	a 福祉用具の種類と目的
		b 福祉用具の選択と適応
		c 自立生活支援機器(環境制御装置を含む)
		d スポーツ・レクリエーション用具
		e IT・ICTの導入と展開
2 評価と支援	A 家庭生活支援	a 活動の維持、再構築
		b 介護指導
		c 障害児の子育て支援

大項目	中項目	小項目
2 評価と支援	B 地域生活支援	a 生活の支援
		b 地域生活の支援
		c 小児通園施設の支援
	C 就園・就学支援	a 統合保育の支援
		b 特別支援教育の支援
	D 雇用・就労支援	a 就労継続支援
		b 就労移行支援
	E 環境整備	a 生活環境、就労環境
	F 福祉用具の適応	a 生活環境、就労環境
	G 施設入所者	a 廃用症候群
	H 在宅(訪問、通所)	b 脳血管障害
	I 維持期	G c 骨関節疾患
] 終末期	5 d 神経障害
		J e 呼吸障害
		に f 循環障害
		共 g 悪性腫瘍
		通 h 代謝障害
		i 住環境
		j 生活状況

Ⅳ 地域作業療法学

V 臨床実習

大項目	中項目	小項目
1 実習前準備	A 安全管理	a インシデント、感染対策等
	B 個人情報、情報管理	
	C 事故・過誤の対応	
	D 対人関係技法	
	E 医療面接	
	F インフォームドコン	
	セント	
	G 評価・治療技術	
	H 基本的臨床技能	
2 実習実施内容	A 情報収集	a 他部門、診療録
	B 医学的情報の理解	a 生化学検査
		b 生理検査
		c 画像検査
		d 手術記録
	C 検査、測定	a 作業療法の検査
	D 問題点の抽出	
	E 全体像の把握	
	F 目標の設定	
	G 治療プログラム立案	a 立案、実施 b プログラム修正
	H 他部門との連携	
	I 記録、報告	a 専門用語
		b 症例報告